



作業環境測定士は見た!

事件は現場で起きている

第15回 連載を終えて～明日へ

連載が始まり3年がたちました。読者の皆さんに作業環境測定士の仕事のイメージを少しでもお伝えできていたなら幸いです。連載の最後に、各回の執筆者の思いをお届けいたします。



第1回後悔先に立たず…騒音性難聴を避け

＜北澤大志＞

騒音の大きさを感じ取っていただけただけでしょうか。騒音が大きい職場では、耳栓などの聴覚保護具を適切に着用することをお勧めします。



第2回事務所内の空気環境測定で新型コロナウイルス対策

＜岩崎雄人＞

収束かと思われた新型コロナウイルスですが、再び感染拡大の兆しがあります。お部屋の換気については継続して取り組んでいきましょう。

第3回ホルムアルデヒドでシックハウス症候群に

＜奥村亮士＞

ホルムアルデヒドは、抑制設備を設置したとしても「管理濃度」未満にするのが難しい有害物質です。取り扱いには特に注意していただくようお願いいたします。

第4回なくならない鉛中毒

＜松本まゆら＞

鉛は身近な金属で、さまざまな用品に使用されています。今回ご紹介した事例以外にも問題が多々あります。このコラムをきっかけに、鉛問題についてご理解を深めていただけましたら幸いです。

第5回まだまだ終わらない石綿（アスベスト）問題

＜品川葉月＞

法改正により一層、建築物の解体・補修についての規制が厳しくなり、石綿に関するお問い合わせが増えていきます。石綿調査・分析の委託は、精度管理を実施している等、信頼できる機関を選択してください。

第6回働く人の「安全・健康」を守る保護具

＜田中裕一＞

今後は個人サンプラーによる測定により、要求防護係数を求めた上で、その性能を上回る呼吸用保護具の選定、フィットテストの実施など、実態に即した選定やマスクの着用方法について定量的に評価することが求められると思われまます。法令改正の動向について注視が必要です。

第7回インジウム取扱い作業場での健康被害にご注意

＜平田晃義＞

インジウム取り扱い作業場での健康被害は比較的最近の事例ですが、氷山の一角です。事業者の皆さんが使用しているすべての化学物質についての有害性に、理解を深めていただくことを切に願います。

第8回胆管がん問題から化学物質リスクアセスメントへ

＜児島 賢＞

2023年4月に施行される法改正で、化学物質のリスクアセスメントが増々重要になってきます。どんな化学物質を使っているのかを、把握することから始めましょう。

第9回働く女性と化学物質

＜品川、松本、森田＞

女性が働きやすい職場づくりは、男性にとっても働きやすい職場づくりにつながります。性別に関わらず、人体に有害な物質は適切に管理していくことが大切です。

第10回見落としていませんか、法令掲示

＜茶村竜紀＞

掲示物は日常的に更新するものではないため、一度見落とすとなかなか気づきにくいと思います。しかし、現場で働く従業員へ周知するうえでは重要な事項です。みなさんの事業場ではいかがでしたでしょうか。

第11回職業がんをなくしましょう

＜森田弓子＞

業務に起因する疾病はがんだけではありません。労働衛生管理を適切に行い、労働者の皆さんの健康と安全を守りください。



第12回じん肺防止 そのマスク着用方法で大丈夫?

＜田中智晃＞

このコラムがきっかけで、じん肺防止に向け労働者の皆さんの、防じんマスクの適切な着用への意識付けとなりましたら幸いです。適切な着用方法により、防じんマスクの機能を十分に発揮してください。

第13～14回測定士のぼやき、醍醐味

＜北澤大志＞

過去の記事については、左記QRのサイトで閲覧可です。よろしければご覧ください。



← 環境保健課 HP

お問い合わせ、環境測定のご依頼は環境保健部まで ☎075-823-0528